

1月29日（月）「節分のお話」

全校のみなさん、おはようございます。

早いもので、今週の金曜日から2月になります。そして、土曜日、2月3日は「節分」です。この「節分」は「季節を分ける」と書きます。つまり、2月3日は季節の分かれ目で、2月4日から季節が変わるということです。この2月4日は「立春」といい、まだまだ寒い日が続いているのに、カレンダーでは、今週の日曜日から「春」になるということになります。

「立春」が、春が始まる日ということは、夏が始まる日も、秋が始まる日も冬が始まる日もあって、それぞれ「立夏」「立秋」「立冬」といいます。そして、その前の日は、以前はすべて「節分」でした。今は2月しか「節分」の行事をしませんが、昔は「節分」は1年間に4回もあったのです。

では、なぜ2月だけ、「節分」として残り、そして、豆をまくのでしょうか。

4つの季節のことを「春夏秋冬」と言いますが、「春」は1年の始まりで、昔は、「立春」が1年の始まりの日、お正月みたいな日で、「節分」が1年の最後の日、大みそかのような日だったです。

昔の人は、病気はすべて鬼のしわざと考えていました。そして、豆には鬼を退治する効果があると言われていました。だから「1年の最後の日に悪いことをする鬼を退治して新しい年を迎え、1年間病気をしたり、悪いことが起きたりしないように…」という願いをこめて、節分の日に豆をまいていました。

最近、節分の日に豆まきのほかに「恵方巻き」を食べるようにもなりました。「恵方」とは神様がいて、その年で一番良いとされる方角のことです。ですから、「恵方巻き」は、その年に良いと言われる方向（恵方）を向いて、願い事をしながら、太巻きを一本丸ごと食べます。ちなみに、今年の「恵方」、一番良い方角は「東北東」だそうです。

節分の日には、ぜひ豆まきをしたり、恵方巻きを食べたりして、今年1年の幸せを願いましょう。

それではこれで朝会のお話を終わります